

## 和歌山とつなごう

王 瑜珍

(教育学部 正規留学生) (中国)

和歌山県は今から約2万5千年前の旧石器時代から人類がいたと考えられている地域である。県地の総面積の約81%は山地であり、よく発達した照葉樹林に覆われ、崖ですら森林が発達する；海岸線が長く、海の景色が美しい、特に南部では黒潮の影響が強くサイゴ礁の様な地域があり、熱帯に棲む魚も南部の沿岸部に釣れる；非常に自然が恵まれている地域である。そのため、世界遺産もたくさんあり、観光スポットとしても有名な場所が多々ある。ただし、このような素晴らしいところにたくさん問題が存在している。

和歌山市内といえば、和歌山城を思い浮かぶだろう。和歌山市駅から徒歩20分ほどのところに和歌山市を代表する和歌山城がある。先日、その近辺を歩きまわした。運よく当日に、駅から和歌山城に行く道に月一回のフリーマーケットが開いていた。手作りのものが多く、商品も可愛いし、おいしそうであった。ただ見回っている人が少なかった。見回っているひとが少なかったというより人通りが少なすぎる。駅を利用する人が少なくない、和歌山城に行く人も少なくないが、なぜこの間にあるこの道にいる人が希少であろう。これは問題である。これを改善すべきと思う。どうすれば、この道を入る人の心を引き込めるのだろうか。どうすればこの道の魅力を引き出せるだろうか。この道を樹蔭が茂り、緑が多く、多くの散歩道にしたらどうか。涼しい樹蔭の下に散歩しながらフリーマーケットを見回り、ゴールは和歌山城である。和歌山城に着き、和歌山の魅力を感じながら、友達とワーワー遊ぶ。この散歩道は単なる駅と和歌山城をつなげただけではなく、人と人の絆でもある。市内の活気にもつながる。

和歌山県内有形な世界自然遺産から無形な世界文化遺産まで数が多い。ただし、交通不便のため行けないまた行きにくい所が少なくない。例に挙げられるのは高野山である。和歌山市民は高野山に行くために、公共交通機関で行くなら、わざと一回大阪の難波まで行き、南海電鉄の高野線乗り換え、和歌山県にある高野山に行く。これは非常に不自然だとおもわないか。和歌山市は和歌山県の北部にある。大阪に行くのは便利であり、同様大阪府府民また近畿の西部にある他の県の県民は和歌山県に来るなら和歌山市に寄って来るまた通るのは当たり前なことだと考えられる。しかしながら、高野山に行くため、逆に和歌山市民は和歌山から大阪に行き、高野山に行く。他の県の人々も和歌山市を通らずにい



ける。そうすると、どうなるかと思考してみれば——和歌山といえば、高野山、みかん、梅しか知らない人が増えていく。和歌山の素晴らしさはこれだけではないことを全国、また全世界に伝えべきだと思う。これは県庁所在地、県の中心地域となる和歌山市がこの役を担うべきだと思う。その基本としてまずイントラ整備を整えることである。鉄道やバスなどの公共交通機関をはじめ、和歌山市から世界遺産や観光スポットに接続の直行線路、また路線を造ったほうがいいのではないかと思う。これは単なる旅行便利のためではなく、これは和歌山文化と他地方文化のコミュニティである。交通機関はまるで文化と文化の間にある橋のようものである。また、和歌山文化を紹介するために、公共交通機関を利用し、ポスターなどを作り、和歌山の物語りや名人などを紹介するのも需要のではないかと思う。和歌山市駅の近辺に遺跡や、旧跡があるが、余りも地味すぎ、誰も気づかない。それを強調するように建て直し、地元の人に、観光客に紹介したほうがいいのではないか。これらは和歌山の魅力であることを人々に伝えるべきだと思う。和歌山には何もない、和歌山は高齢者が住む場所であるイメージをひっくり返ろう。

和歌山は日本にある素晴らしい場所である。これを伝えるために先に人の心と和歌山とつながないといけない。和歌山の魅力を分かってもらうことは基本である。

